

富士山を覆っていた雪が融けつつある。不思議なもので、南斜面の融雪速度が大であり頂上付近も黒い地肌が見える。

富士山と言えば、世界遺産に登録しようという動きがあったが、その後どうなったのだろうか。若干調べてみた。

世界遺産は、世界遺産条約締約国からの申請に基づき、ユネスコ世界遺産委員会により選定される。日本は1992年、条約締結、93年に文化遺産としての「法隆寺地域の仏教建造物」と「姫路城」、自然遺産としての「白神山地」と「屋久島」が登録された。爾後、「古都京都の文化財」「白川郷・五箇山の合掌造り集落」「広島原爆ドーム」「厳島神社」「古都奈良の文化財」「日光の社寺」「琉球王国のグスクと関連遺跡」が順次登録され、現在では11件となっている。

世界遺産候補は、従来から暫定リスト（即ち日本政府の推薦物件という性格である）に登載されている「鎌倉の寺院・神社」「彦根城」に加え、昨年11月に次の「平泉の文化遺産」「紀伊山地の霊場と参詣道」「石見銀山遺跡」の3件が追加され、現在では5個である。富士山については、「日本人の信仰や日本を代表する名山であり、早期に世界遺産に推薦できるよう強く希望する」との意見を盛り込んだ世界遺産条約特別委員会の報告を文相の諮問機関である文化財保護審議会が昨年11月に了承した。

富士山を世界遺産に登録しようという動きは1994年頃、「富士山を世界遺産とする連絡協議会」と静岡新聞・SBS静岡放送が「百万人署名運動」を展開、二百万以上の署名を集めたことがあるが、有料道路が走り、ゴミ問題を抱えること等から登録を見送られた経緯がある。

富士山は古来より霊峰富士として知られ、富士信仰が広く行われ、今でも富士山に触れた国民は富士山に霊なるものを感じていること、その富士山の秀麗な姿は多くの芸術作品のテーマともなり、日本人の美意識の根底を為していること等、日本人と富士山というのは密接且つ特別な関わりがある。このような観点から、世界遺産たるに相応しい価値を有していると言えよう。

世界遺産に登録しうるか否かの鍵は、富士山のゴミ問題と自然破壊ではなかろうか。大沢崩れをはじめとする富士山の景観を損ないかねない自然破壊を如何にして食い止めるか、年間30数万人に上る登山客のゴミを如何にして減らすことが出来るかがポイントであろう。

そのような観点から、心ない者による演習場への粗大ゴミ等の違法投棄や、山麓域の河川や道路端へのゴミ投棄等に激しい憤りを覚える。一例を挙げよう。小生の住んでいる官舎の南西直下とも言えるべき所を小山佐野川が南東流している。タラが芽吹いているのではないかと先日、捕らぬ狸の皮算用ならぬが如くに大きなビニール袋を持って探索に出掛けた。あわよくば、夕食の膳に春の山菜一品をとの思いもあったのだが、残念ながら、芽が少し顔を出した程度で、とても採取できる大きさではなかった。小川は、護岸工事がしっかりされており、自然の味わいは余り感じられなかったが、防災上は止むを得ないのだろう。護岸工事も自然を活かし、自然と調和した形で為されることが望まれる。然しながら、それにしても、何と汚いことだろう。ビニールや空き缶や果ては使用不能な家電製品の墓場ではないか。「兎追いし山や雄鮒釣りし彼の川」は何処に行ってしまったのか。清流よ帰ってこい。富士山の頂上に至る各ルートや山麓周辺も似たような状況である。このような状態では世界遺産に登録など論外と言わざるを得ない。官民挙げての環境保全運動が望まれる。

(参考：静岡新聞 12/12/2, SAPIO2001.4.25 等)